

ネット・ラジオドラマ「この指とまれ」

大学生2人の行く末 猫の目で 新作イースタードラマ配信

ネット・ラジオドラマ「この指とまれ」(URL<https://konoyubi-drama.jimdo.com/>)の「この指とまれ」では、イースター特集として4月2日に新作イ



台本の読み合わせをする出演者たち



「この指とまれ」のスタッフたち。左端が小川さん

スタードラマ「ニヤンとも素敵なイースター」(大橋めぐみ作)、イースター史劇ドラマ「私には見える」(高見沢文江作、小川政弘脚色)を、ネット配信した。

「ニヤンとも素敵なイースター」は、拾われ猫ソラの目から見た、大学生の七海と健人の物語。クリスチヤン一家で育った健人は、何とかイースターに七海を教会に誘うとするが、イースター(復活祭)の意味さえ知らない七海をなかなか導くことができない。一計を案じた健人は七海をゴスペルコンサートに誘うことに

…。情感豊かに語る小川さんによるマーカスの声、激しい雷の音や地震の音といった効果音がドラマを引き立てる。

「この指とまれ」では、ステレオ旧約聖書ドラマシリーズ第1作「アダムとエバ」を公開中だ。これまでステレオ新約聖書ドラマ「イエスに出会った人々」(全56話)で新約の人物を取り上げてきたが、今度は旧約の人物にも焦点を当てていく。今月は「カインとアベル」を録音する。小川さんは「聖書に登場するすべての人物をやり続けたい」と意欲を燃やす。そのほか、「耳で聞く聖書 朗読の部屋」、「TRUE STORY 解き放たれた人生」(71話まで制作)のコーナーもある。

現在、スタッフは大人から子どもまで9人。若い頃、俳優になりたいと思って夜間の俳優養成学校に2年間通ったことのある小川さん以外はほとんど素人。だが、小川さんの演技指導でみるみる上手になった。「一方で厳しく、一方でおたてながら育てます。私がちょっとしたヒントを与えて、ひと皮向けると、コツみたいなものをつかむ。するとみるみるうまくなっていくのです」と笑顔で話す。

ラジオドラマ「この指とまれ」は1975年にスタートし今年で44年目。短波、中波で放送してきたが、01年にインターネットに切り替えた。これまでのアクセス数は2万人を超える。聴取者は年間2千人ずつ増えています」と語る。

このイースターの時、「この指とまれ」のネット・ラジオドラマで楽しんでみてはいかがだろうか。

。健人の計画が功を奏し、やがて教会に足を運ぶようになる七海。その様子を、拾われ猫のソラがユーモアたっぷりに語る。「私には見える」は、イエスを探し求めて旅をした盲人マーカスが、十字架に架けられるイエスのことを耳にする。3日目にイエスの墓にやってきたマーカス。目が見えないはずのマーカスが目撃したものは